

ひと目でわかる てんかん

教員のための

てんかんとは？

脳神経系の病気です

100人に1人くらいの割合で発症するありふれた病気
脳内の神経細胞の異常な興奮

さまざまな発作



繰り返し起こる

発熱時だけや1回だけの発作はてんかんではない

発作

症状はさまざま

意識がある発作／ない発作
感覚異常や自動症を伴う発作
倒れてけいれんを起こす発作

薬

薬でコントロールでき、
ほぼ普通に生活できる
毎日きちんとのおむことが大切

コントロール

心がけ

規則正しい生活で
発作を起こさない心がけを
疲労、ストレスをためない

てんかん発作に似た症状

- 熱性けいれん 発熱時、乳幼児に多い
- 失神 脳の血液量の急激な減少(幼児期～思春期)
- 心因性発作 精神的な原因
- チック 顔の筋肉がピクッと動く、詳しい原因は不明

てんかんのある子どもへ

その子に合った対応を
過度な制限をしないように
しましょう

子どもたちへの心のケア

ほかの子どもたちへ

安心感を与え、
てんかんのある子どもに普通に接して
あげるよう指導しましょう

発作、そのときどう対応する？

発作中

発作は短時間

落ち着いて

観 察

安全を
確保する

発作後

発作がおさまったら



- ・眠ったら、そのまま寝かせる
- ・嘔吐することがあるので、顔は横向きに
- ・もうろうとして歩き回るときは、軽く寄り添う

横にして、衣服をゆるめる。下あごを上げる

発作は突然、場合によっては非常に大きな力で起こるため、思わぬけがを招く危険があります。子どもの周囲を落ち着いてよく観察し、**危険**があれば取り除きます。介助者も注意が必要。



できれば
顔と体を横向きに

危険1

打撲

- 頭・手足を保護（頭の下に柔らかいもの）
- ぶつかりそうなものを移動

危険2

やけど

- 火気を移動

危険3

とがったもの

- われもの・とがったものを移動（メガネ・ヘアピン・筆記用具など）

プールでは

鼻と口が水面から出るように頭部などを支え、発作がおさまった後、水から引き上げる
発作がおさまるまで見守り、危険を回避する
余裕があれば発作時の様子・持続時間を観察記録し、主治医へ報告すると診察に役立つ

発作中NG

口の中にものや指を入れない

ゆすったりたたいたり
大声で呼ばない

禁止



救急車(119)を呼ぶ場合

- 初めての発作
- 発作が5～10分以上続く
- 発作が続いて起こる
- 呼吸困難がある
- 負傷し、出血がひどい

受診が必要な場合

- 医師の処置が必要なけが
- 吐き気や頭痛が数時間以上続く
- 頭を打って、いったん意識が回復した後、またもうろうとしている

発作後に水や薬を のませない

禁止

